

今週のみことば

「わたしに何をして欲しいのか」

(ミカ書6章1節～6節)

「主はあなたに告げられた。人よ、何が良いことなのか、主があなたに何を求めておられるのかを。それは、ただ公正を行い、誠実を愛し、へりくだって、あなたの神とともに歩むことではないか。」(6:8)

(マルコの福音書10章46節～52節)

「イエスは彼に言われた。『わたしに何をしてほしいのですか。』すると、その目の見えない人は言った。『先生、目が見えるようにしてください。』(51)

今日のメッセージ要旨

◎私たちは信頼している方から「わたしに何をして欲しいのか」と招かれると飛び上がるほど嬉しいことでしょう。その時、何を求めますか？

◎ミカ書6章の主題は「神のイスラエルに対する論争」で、内容は、民に対する告発(1-6)、告発に対する応答(6-8)、指導者に対する告発と審判(9-16)です。

イスラエルの人々は、主がどれほどの恵みを下さったかを忘れてしまった。「わたしの民よ、思い起こせ」(5)と主は仰せられる。エジプトの地で奴隷だった先祖を救い、指導者モーセを備えられたのは主ご自身です(4)。約束の地カナンを前にモアブ王のたくらみを砕き、ヨルダン川の東シティムの民の不信仰を忍び(民数記22-25章)、ヨルダン川をせき止めて彼らを無事カナンの地に導かれたのも主だったのです(5)。主が求められるのは、人を偏り見ず、物事に対して公正、弱い者や助けが必要な者を思いやり、富や能力や立場を神様から委ねられたものと考え、人々の益のために用いる。そういう生き方。それが神様とともに歩むことです(8)。

◎マルコの福音書10章1-52節の主題は「神の国に入る者」です。主イエス様はご自分がエルサレムで受ける受難を予告された後(8:31～33, 9:30～32)、毅然とした態度を持ってヨルダン溪谷を通ってエルサレム(海拔760[㍎])に上っておられた途中、エリコ(海拔下250[㍎])での出来事が記されています。

◎10章の中で主イエス様が二回「何をしてほしいのか」と語りかけておられます。①主イエス様が弟子たちに三度目の受難の予告をされた後(10:33-34)、ゼベダイの子ヤコブとヨハネが主イエス様に頼み事をした時にです(36)。二人は「あなたの栄光の座で、ひとりを先生の右に、ひとりを左にすわらせてください」と求めた時、主イエス様が「あなたがたは自分が何を求めているのか、分かっていないのです」と叱責しておられます(37～38)。②盲人のバルテマイ(テマイの子)が物乞いをしていて、主イエス様が通られた時、「ダビデの子イエスさま、私をあわれんでください」と叫んだ時、群衆は黙らせようとしたましたが執拗に叫び立てたので、主イエス様は「あの人を呼んできなさい」と招かれた際、バルテマイは直ちに上着を脱ぎ捨て、すぐに立ち上がって近づいた時にです。「先生。目が見えるようになることです」とはっきりと自分の窮状を告白し、懇願したのです。その時主イエス様は「さあ、行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのです」と語られ、彼は目が見えるようになり「イエスの行かれるところについて行った」のです(52)。第一回目の弟子たちは主イエス様に高い地位を熱心に願い拒否されました。彼らも他の弟子たちも自分の無理解と不信仰から救い出されることを熱心に願わなければならなかったのです(9:19, 24)。その反面バルテマイは自分の現実を訴えました。いつも自分の弱さを知り信頼し従う者でありたい。